

「葉ボタンの栽培」

今月は、寒くなる時期に葉が白やピンクになり、その豪華な草姿でお正月飾りとして門松の根元を飾る「葉ボタン」の紹介です。



企画営業課
芦田 慎哉

●種まき・苗づくり

種まきは、葉の枚数を確保するために、7月下旬～8月下旬頃までに行います。ほ場に育苗床を作つて苗を作る場合は、「ばらまき」または「すじまき」で薄まきにします。

セルトレイ（72穴）またはポリポットで苗を作る場合は、育苗用培土を使用し1か所に1～2粒をまきます。その後、発芽までは乾燥防止を目的に寒冷紗等をベタ掛けにします。

●仮植床準備

仮植床は日当たりと水はけの良い場所を選び、過湿になりやすい場所では高畝にするなどの工夫が必要です。たい肥や肥料はあらかじめよくすき込んでおきましょう。施肥量は化成肥料を10平方メートル当たり100グラム程度施用します。葉ボタンは吸肥力が強い作物ですが、肥料の量が多過ぎると茎葉が茂り過ぎるので、前作の肥料分が多く残る場合は無肥料とします。

●移植及び仮植

ほ場の育苗床に種まきした場合は、本葉2～3枚時に10センチ×10センチ間隔に移植し、その後本葉7～8枚時に15センチ×15センチに仮植します。セルトレイまたはポリポットで苗作り

をした場合は、種まき後25日を目途に仮植します。

植え付けの際は、茎が真っすぐになるように植え付け、子葉を土に埋め込まない程度に株元の土をよく押さえましょう。

仮植後、苗に肥料分が必要以上に残ると、定植後の葉の発色が悪くなる恐れがありますので、10月に入つての追肥は行わないようにします。

●下葉かき

下葉かきは3～4回行い、風通しを良くするとともに草丈を伸ばします。

●定植

定植は、苗が発色してから行いましょう。定植の適期は、10月下旬～11月上旬頃です。

●園芸店等で苗を購入される場合

①完全に着色しているものを選びましょう…

着色が不完全なものは、苗作り段階での肥料の効き過ぎか、低温遭遇期が短いためと思われます。株がある程度出来上がつてしまったものは、さらに発色することはありません。

②葉数が多いものを選びましょう…株にポリariumのある、葉の数が多

いしつかりとしたものを選びましょう。

③茎がぐらつかないものを選びましょう…

茎が太く、ぐらつきの無いものを選びましょう。株により茎の長いものや短いものがありますので使い方により選びましょう。

④葉に穴が開いたり、虫が食した跡が無い株を選びましょう…

葉裏や葉と葉の間に害虫がひそんでいる場合がありますので、購入の際は丹念に株を見回しましょう。

⑤下葉の先から枯れているものに注意しましょう…

ポットの中に根が張り過ぎて詰まっている状態です。このような苗を購入した場合は、植え付けの際に軽く根鉢をほぐすことをおすすめします。

